



上田委員



松本憲委員



橋元委員

●青女世代の分会役員兼務について、改善が見られない。特に分会の三役については、負担にならない体制を要請する。

新在家派出所が和歌山支社になるのか

中川 雄貴 (大阪地本)
●エリア手当を同水準に。新在家派出所が和歌山支社になるのか教えてほしい。

●亀山鉄道部が解散され、天王寺信通区の範囲が広がった。しつかり説明をするよう会社に要請をお願いする。

●スーパーTIDについて、運転士も車掌と同じものを使用するようにしてほしい。

●出向者と繋がる術は？

原田健太郎 (本社総支部)
●出向者はワイズネット上の名簿など確認できず連絡すら取れない。郵送するため手間がかかる。

●カチャットやdirectの機能・対象拡充を行い、社外を含めた出向者について、閲覧共有が可能となるよう要請されたい。

お願いする。
短時間勤務8日利用を他職種にも適用を

上田 晃大 (金沢地本)
●遠隔MVの利用実態を把握し、お客様への快適なサポートができるような体制を整えてほしい。

●仕事と育児を両立し、安心して組合活動に参加できる組合員が増えるように、深夜勤務制限を義務教育終了までと改正してほしい。

●短時間勤務8日利用が他職種も利用でき、制限も義務教育終了までしてほしい。

●社外出向組合員のフォロー体制の充実を

松本 侑馬 (岡山地本)
●昨年度71名参加の下、レクリエーションを開催した。感染対策のアドバイス。

●組合活動のデジタル化に伴

●短時間勤務8日利用が他職種も利用でき、制限も義務教育終了までしてほしい。

●社外出向組合員のフォロー体制の充実を

松本 憲亮 (大阪地本)
●クレペリン不合格時の組合のフォローをお願いする。

●クレペリン試験の定期検査と臨時検査の、不合格後の運用を。支社、グループ内に対象を広げてほしい。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

い電子マネーによる活動費の支払いの検討をお願いする。

●人間ドックの年齢の引き下げと、受診の応募をお願いする。

●社外出向組合員のフォロー体制の充実を訴える。

●短時間勤務8日利用が他職種も利用でき、制限も義務教育終了までしてほしい。

●社外出向組合員のフォロー体制の充実を

松本 憲亮 (大阪地本)
●クレペリン不合格時の組合のフォローをお願いする。

●クレペリン試験の定期検査と臨時検査の、不合格後の運用を。支社、グループ内に対象を広げてほしい。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

●労働協約では医療職に対する一部二重就業を認める回答を引き出した。感謝する。

JR西労組の取り組みは間違いなくトップクラスである



●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

●組合員数も少なく組合活動が不十分である。そんな状況を克服するために精一杯取り組む。『ピンチ』は『チャンス』。このコロナ禍で協力を

今できることを

青年女性委員会らしく進めていこう

JR西労組中央本部青年女性委員会は、2021年10月10日(日)・11日(月)、ホテルロイヤルヒル福知山に於いて、「第31回定期委員会」を開催した。冒頭、福知山線列車事故、伯備線車事故をはじめとするすべての列車事故労働災害でお亡くなりになられた方々へ哀悼の意を表し黙祷を捧げた。議長に尾西委員(和歌山地本)、乳原委員(福知山地本)の両名を選出。冒頭挨拶で、鶴石委員長は「安全」「政治」と労働組合の関わり「冬のボーナス」「組織」「青年活動」について問題提起を行った。議事では、1日目に渡邊副委員長から活動経過報告、沖島事務局長から活動方針案の提起、機関誌コンクルールの表彰を行った。2日目には全体質疑が行い、各地本・総支部から22名の委員が、56項目について、活動方針を補強した。その後、スローガン、活動方針を、満場一致で採択。沖島委員長を中心とした新体制が発足し、沖島新委員長は団結ガンパローで第31回定期委員会を締めくくった。



沖島委員長を中心とした新体制が発足、団結ガンパロー

の大単位化により、育児介護の負担が大きくなる。

●若手社員の離職防止や出向組合員へのフォローなど、各地本でうまくいった方法の共有をお願いしたい。

ユースタディのフィードバックを

後藤 優太 (福岡地本)
●中央本部のユースタディを福岡地本準備の下開催した。今後のユースタディについてもフィードバックし、役員の技術継承につなげてほしい。

●若手の離職の理由は、希望勤務地以外への移動や地上職手当への不満が多い。具体的な改善を要請する。

「ピンチ」は「チャンス」。コロナ禍を生かす

古川 壘 (西バス地本)
●レクリエーションに参画することは有意義な機会になる。ただ、参加は1人と決められており、初めて参加する組合員は不安が大きい。参加者増

●冬のボーナスについて、青年組合員はほとんどがC層のため収入も少ない。夏の忘れ物2ヶ月の確保を要請する。

●近畿エリアと中国エリアで

●近畿エリアと中国エリアで

外出向な

●様々な施策に協力し、昨年のボーナス見直しなど会社の危機回避に積極的に協力してきた。

さらに、雇用調整助成金の延長や産業安定助成金の対象拡大などに尽力したからこそ、国からの支援がある。これらの事実こそが、私たちの取り分の所在を裏付けている。

組織について

今年の新規採用者への加入行動も皆さんのおかげで新人社員585名全員に加入していただいた。JR西労組があるから組合員の雇用が守られ、雇調金の支援も拡大しているのである。

青年女性委員会

青年女性委員会の活動の目的「仲間づくり」が思うような形でできず、苦しくつらい思いを抱え、模索しながら新たな挑戦をした2年間であった。

中央本部においても、リモート併用での開催となった。開催形態はどうであれ人と人が目を合わせて話ができる「仲間づくり」の場を作り続けることに意味があると改めて実感した。

今やるべきなのかを考えるのではなく、今だからやらなければならない、出来る方法を考えなければならない。

そして、収束した際にはコロナ前、コロナ禍双方の良いやり方で進める。

終わりに

JR連合の議長も務め、様々な方とお話をする機会があった。どこの単組からも、「JR西労組の取り組みは間違いなくトップクラスであり参考にしたい」と言われた。この言葉には胸を張っていい。自信をもって取り組みを進めていこう。これからも、共に頑張ろう。

冬ボーナスについて

長期債務も1兆8000億円まで増加し、公募増資を行うなど負債は膨らむ一方である。

JR西労組は、業務の効率化と超勤の削減、一時帰休やグループ

全体質疑

制度は進みつつあるが、設備の不備が実現の機会損失を招くと考える。

●賃金制度 評価システム、第2基本給の廃止など、働き甲斐もてる仕組みづくりをお願いします。

●女性問題 LGBTダイバーシティといった多様性について、

●意欲のある優秀な社員を失